

論文審査の結果の要旨

報告番号	甲 第 1310 号	氏 名	後 藤 憲 彦
論文審査担当者	主 査 今村 浩 副 査 関島 良樹・小泉 知展 外部審査員 菊地 利明 (新潟大学大学院医歯学総合研究科 呼吸器・感染症内科分野)		
<p>(論文審査の結果の要旨)</p> <p>2020年2月から2021年3月までに長野県内医療機関へ受診したCOVID-19患者84例を対象として、質問票による症例データを収集した。症例を酸素投与を必要とした群(酸素投与群)と必要としなかった群(酸素非投与群)に群分けし、2群間で統計学的解析を行い、COVID-19患者の酸素投与の必要性を予測するリスク因子について後方視的に検討した。その結果、後藤は次の結論を得た。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 酸素投与群では酸素非投与群と比較して、高齢で、BMIおよび喫煙指数(Brinkman Index)が有意に高かった。2. 酸素投与群では酸素非投与群と比較して、高血圧、糖尿病を有する症例が有意に多かった。3. 酸素投与群では酸素非投与群と比較して、発熱、倦怠感、呼吸困難の症状を有する症例が有意に多かった。4. 酸素投与群では酸素非投与群と比較して、血液検査では白血球数、リンパ球数、血中アルブミン値が低値であり、AST、ALT、LDH、BUN、クレアチニン、CRP、KL-6が有意に高値であった。5. 酸素投与群では酸素非投与群と比較して、抗ウイルス療法(レムデシビル)とステロイド治療(デキサメサゾン)を受けた症例が多かった。6. 酸素投与群では酸素非投与群と比較して、画像所見では浸潤影を認める割合が高かった7. 酸素投与群では酸素非投与群と比較して、初診時のバイタルサインではSpO₂が有意に低値であった。8. 各因子について単変量ロジスティック回帰分析を行ったところ、年齢、BMI、喫煙指数、アルブミン、LDH、BUN、CRPがリスク因子の候補と考えられた。9. 上記因子について多変量ロジスティック回帰分析を行ったところ、年齢、BMI、BUNが独立したリスク因子と考えられた。10. 多変量解析で得られた年齢、BMI、BUNの3因子を組み合わせると判別分析を行うとAUC 0.88と高値であった。11. 年齢、BMI、BUNの3因子を用いて酸素投与の必要性を予測するノモグラムを作成した。 <p>これらの結果から、年齢、BMI、BUNがCOVID-19患者における酸素投与の必要性を予測しうると考えられた。よって主査、副査は一致して本論文を学位論文として価値があるものと認めた。</p>			